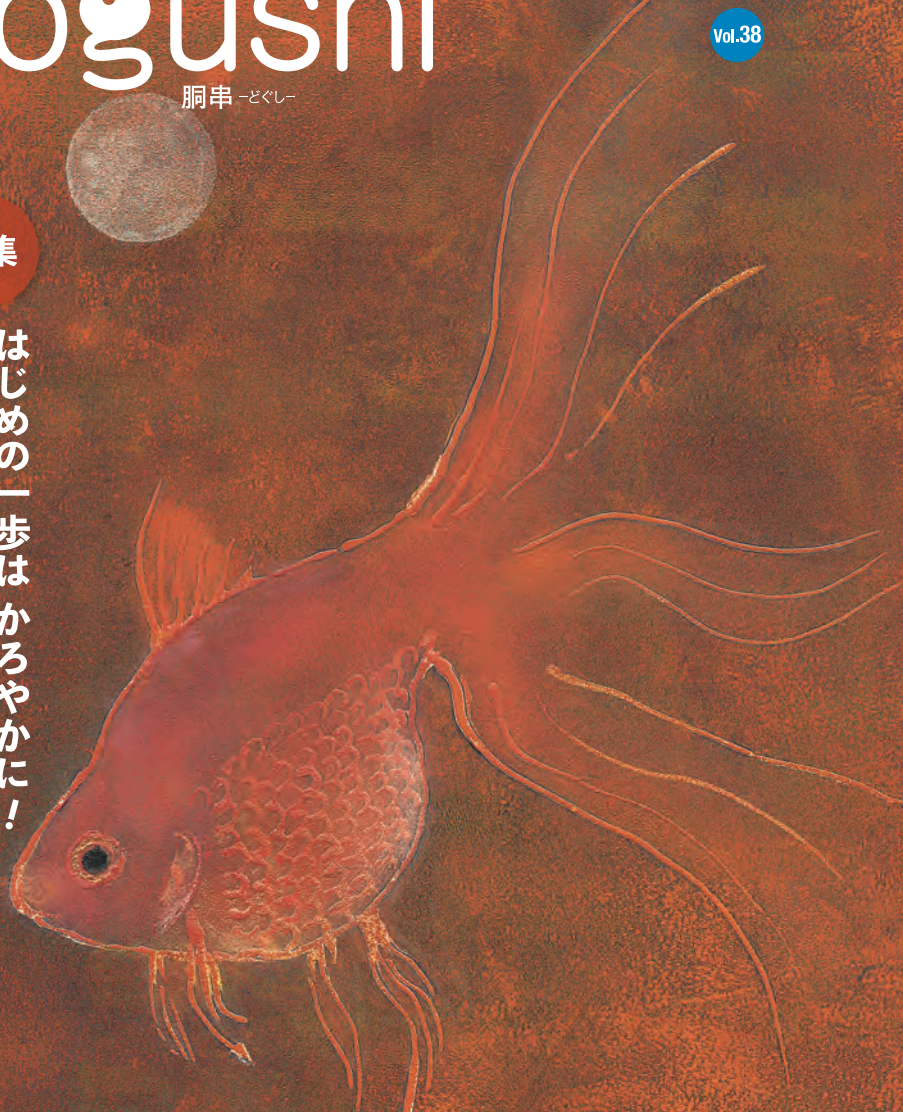


## 特集

はじめての一步はかるやかに！  
人形たちとつくるコミュニティスポット  
ほつり



Dogushi Vol.38 2022年7月発行 発行：人形劇のまち飯田「運営協議会」  
制作：NPO法人いいた人形劇センター TEL:050-5083-6594 FAX:050-5083-6594 E-mail: itda-puppet@misjans.or.jp

### 掲示板 いいた人形劇センター からのお知らせ

#### 市民がつくる飯田発の人形劇 『人魚姫』展



8/23(火)まで  
開催中♪

南信州の市民が、プロの演出家・人形美術家とともに製作した人形劇『人魚姫』の世界を体感できる企画展です。2013年10月に製作がスタートし、10年近く続いてきた市民活動の記録を舞台で使用した人形、2015年からの上演、日々の稽古や舞台の仕込み風景など秘蔵映像とあわせて楽しめます。

- 場所／飯田市川本喜八郎人形美術館 2F交流ゾーン
- 開館時間／午前9時30分～午後6時30分 (入館は午後6時まで)
- 休館日／水曜
- 観覧無料 ※3Fギャラリーは入館料必要
- 問合せ／いいた人形劇センター ☎050-3583-3594

Dogushi



View of IIDA

今夏開催の「いいた人形劇フェスタ2022」に全国から訪れる方々をお迎えしようと、中心市街地の商店や企業、保育園・認定こども園が手づくりの人形で“まちなか”をデコレーション。飯田人形劇場には入舟幼稚園の園児たちの作品『青い鳥』が飾られています。

### 第18回 AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市

#### ミルポワ (フランス)

フランス南部のオクシタニー地方にある人口3,000人ほどの町で、2021年にAVIAMAに加入しました。ミルポワの人形劇フェスティバルはMIMA(ミマ)フェスティバルと呼ばれ、8月上旬に4日間の日程で開催されます。期間中は劇場や通りで上演があり、展覧会やワークショップ、コンサート、マーケットなども開かれます。また、OFFフェスティバルという、フェスティバルの合間の無料イベントもあります。上演は子ども向けから大人向けまであり、伝統的なものや前衛的なものなど様々で、2022年で34回目を迎えます。

MIMAフェスティバルが始まる以前には、フランスの人形劇フェスティバルはシャルルヴィル・メジェールにしかなかったので、MIMAフェスティバルの取り組みは新しく独自のものでした。当時は町が主催していましたが、1995年からはFILENTROPE(フィランツロップ)という協会がフェスティバルを運営しており、多種多様なプログラムによって人形劇の創造性を高め、発展に貢献しています。



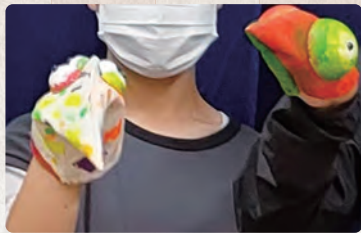
### 並木 さんぽ

この3年間、人形劇に限らずあらゆることが嬉しい日々でしたが、そんな中でも肅々と進んでいたことがありました。“人形劇のまち飯田”に新しく専門劇団が誕生したのです。今号でも紹介しました「人形劇DALA」。上演は伊那谷が主ですが、すでに固定ファンがついているみたい。これからの活躍が楽しみです。次号は2022年11月発行予定です。(帆)

表紙画:井原千代子



子どもたちとスタッフが一緒になって、モンスター人形を色塗りしていました(オルタにて)



個性豊かなモンスター人形(オルタにて)



ミニライブを待っている間に障子窓を舞台に見立てて人形遊びをしていました



いなまちBASEでの人形劇公演。ボランティアの高校生も熱心に見ていました

はじめの一步は かるやかに!

特集

人形たちとつくるコミュニティスポット

## ほっこり

どなたでも気軽に立ち寄れる居場所がほっこりです。新しい人形の仲間が増えてますますにぎやかになりました。人との付き合いにちょっと疲れたら、日常を離れて人形の世界に少し浸ってみませんか。

5月29日(日)にほっこりで2回目のミニライブを開催しました。多くの方からのお申込みがあつて、午後追加公演をすることにになりました。屋外の客席も天候に恵まれて、ゆったりとした空間で音楽・人形劇・人形遊びを楽しみました。なかでも演奏中に畳の上を小さな子どもたちが喜んで走り回っていたのが印象的でした。初めてのことは少し勇気がいりますが、ほっこりは気軽に参加できますので、いつでもお立ち寄りください。

アウトリーチでは、7月4日(月)に伊那市の子ども・若者サポートはみんぐが運営するオルタといなまちBASEに行ってきました。午前と午後に分けてそれぞれ生演奏付きの人形劇と人形づくりのワークショップや音作りの仕組みなどを子どもたちにお届けしました。ある小学生は人形劇を観た後に、「自分には合わない」と言つて人形づくりには参加しませんでした。人形劇がいつも楽しいとは限りません。いろんな体験をして好きなこと、嫌いなことが分かるのが大事だと思います。一方、モンスター人形をつくっていた男の子たちはとても楽しそうに思い思いの色を塗っていました。個性豊かに素敵なモンスターができあがりました。

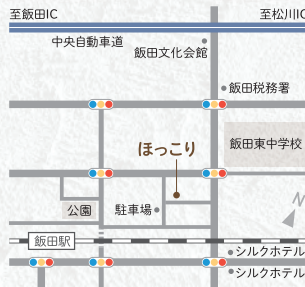
### イベント情報

●8月4日(木)~7日(日)  
10時30分~15時00分

※フェスタ期間に開けていますので、お気軽にお立ち寄りください。

●8月27日(土) 10時/14時  
映像制作ワークショップ

●9月23日(金・祝) 14時  
ミニライブ



お問合せ  
NPO法人いいだ人形劇センター  
☎050-3583-3594 担当:木田・後藤  
hokkoripuppet@gmail.com



開所時間:毎週火曜 14:00~17:00  
:第1・第3木曜 15:00~18:00  
:第2・第4土曜 14:00~17:00

参加費:無料。時間内は自由に入退室できます

場所:飯田市高羽町2-5-1  
10台収容できる駐車場あり



ミニライブでの人形劇公演

いなまちBASEでは親子三組が人形劇をとても楽しんで見ました。今年のいいだ人形劇フェスタを案内したところ、とても興味を持って早速予定に入れてくれました。楽器体験も子どもたちは嬉々として、ボンゴを叩いたり、ギロを棒でこすったりして遊んでいました。

これからのいろいろなところに出かけて、初めて出会う人形劇の楽しさや怖さ?を伝えていきたいと思えます。お近くの方はぜひご参加ください。





# 突撃 人形劇の Part 30 ゲ・ン・バ

飯田東中学校人形劇部りんご劇団「三びきのこぶた」



こぶた役の3人がワラ、木、レンガの家づくりを担当

5月からスタートしたいいだ人形劇センターの人形劇講座に多くの市民が参加しているとの情報をキャッチ。人形づくりや稽古に日々励む姿をとらえるべく、早速“ゲ・ン・バ”へ直行しました!



### ユースクラブ

飯田市内の中学校には人形劇部がありますが、飯田東中学校と県中学校は学生を対象にしたユースクラブにも参加し、時間をかけて作品づくりに取り組んでいます。



人形のデザイン画を見ながらつくり方を聞き、作業は5人で分担

### 県中学校人形劇部「のん」

『トラッパニアニマルズ 最高の相棒』



全員であらすじを考え台本を作成したオリジナル作品は、仲間たちの友情を描く感動の物語。個性のあるキャラクターが勢ぞろい

## 初級コース

日本の民話「喰わず女房」を全15回で仕上げる講座に、飯田市内外の5人が参加。台本を読みながら人形の動きや景色の変化を想像し、講師のアドバイスで人形づくりに取り掛かります。7月からは人形づくりと並行して立ち稽古もスタート。参加者はやる気十分。10月の成果発表が楽しみです。



人形を持って立ち稽古

## 製作・上演サポートコース

新作づくり、既存作品のブラッシュアップを目的とした劇団の活動をサポートするコースには、飯田下伊那だけでなく県内各地から劇団が参加。今夏のいいだ人形劇フェスタ上演を目指すほか、今秋以降や1年後の完成を目標に自分たちのペースで活動しています。写真で紹介するほかに「ころぼっくり」「なががた座」も稽古や製作に励んでいます。



既存作品をブラッシュアップして今夏のフェスタに参加する「人形劇団新天地」(長野市)



新作を製作中の「人形劇団ふたご座」



今秋の成果発表を目標に稽古に力が入る「くまっこや一座」(北安曇野郡松川村)

# 第27回 すべての道は 飯田へ通ず

## 飯田へ、そして飯田から

「チュータとクッキー」の上演



地域公演の次の日に、本部での催者の方が、地域公演の主催者の方が、地域公演の次に、本部での

人形劇団ココン 山田俊彦  
不思議な気がする。飯田という街が、記憶の大きな位置を占め、いつのまにか大きな意味を持っている。  
1998年に猛烈トホホ団でミッドナイトシアターに参加したのが最初。その後2001年にココンとして活動を開始してから、ほぼ毎年上演参加してきた。ITOプロジェクトのメンバーとして、上演、人形展示もさせてもらった。  
地域公演では、冷房設備のない会場を冷やしながらの上演。交流会も楽しい、そしておいしい。  
新鮮な野菜! 地域公演の主催者の方が、地域公演の次に、本部での



東野大獅子と宇天王 (写真提供:岡田倫英)



ITOプロジェクトによる人形展「糸の世界」(2016年)

上演を見に来てくれたことがある。祭の後で酒の匂いをぶんぶんさせながら。セントラルパークでは、関西ナイトフィーバーという企画をパークのスタッフと一緒に作った。  
こうして思い返してみると、上演した内容より、飯田の人たちとの交流が記憶に残っている。  
今年、7年に一度の飯田お練りまつりが3月に開催された。2004年に行った。25メートルの大獅子に圧倒される。300年以上続けられてきた祭と聞いて、飯田の方が元々持っている力を知りたい。  
飯田が特別な理由は、そこに住むちょっと特別な人たちとの出会いがあったからだと思う。そしてその交流はフェスタの期間を超えて、飯田という場所を超えて続いたりする。  
すべての道は飯田へ通ず。そして飯田から道が広がる。

次号は「人形劇団ししかばね」の井村裕さん井村律子さんです

## Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から

### ふるさとの唄 熊谷元一 編著 下平謙一 採譜

熊谷元一は小学校教員で、写真家、童画家。阿智村に記念館があり、フェスタのついでに立ち寄れる。この『ふるさとの唄』は、いわゆるガリ版刷の謄写版印刷。つまり、字も絵も手描きで、全95頁に5か月間かけて162回も刷を重ねた版画本でもある。

戦争前後の飯田周辺の子どものわらべ唄を採録し、味わい深い童画がつけられて、頁を繰る度に子どもたちの表情が、想像力を豊かに展開させてくれて、いまリアル本などといわれる出版物の存在感を明快にさせる。飯田にこうした良質の出版文化の環境があったことは、人形劇フェスタにとっての大きなバックボーンなのだと思う。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



発行 秀文社(1953.1.1)



## “人形劇のまち飯田”から発信

# 人形劇の楽しさをつたえ、ひろげるワークショップ

いいだ人形劇センターは幅広い年齢を対象にさまざまな講座を実施していますが、今年度から飯田を飛び出し、長野県内各地へ出かける“出張ワークショップ”を行います。お近くでの開催がありましたらぜひご参加ください！



5月・6月に飯田で行った「片手遣い人形づくり」。2日間・6時間の内容で人形「体」をつくりました

### 張子のお面人形づくり(全4回)

11月12日(土)・13日(日)・19日(土)・20日(日)

いずれも10時～16時30分

場所／飯田文化会館、丘の上結いスクエア

講師／吉澤亜由美(人形美術家)

料金／3,000円

※4日間参加してください

### わかりやすく話す、読むための基礎講座(全2回)

2023年1月28日(土)・2月4日(土)

いずれも13時30分～15時30分

場所／川本喜八郎人形美術館2F映像ホール

講師／佐藤圭代(飯田エフエムパーソナリティ・元テレビ高知アナウンサー)

料金／1,500円

※小学生から参加できます。2日間参加してください

### 出張ワークショップ

#### ちっちゃい人形をつくって遊ぼう

9月3日(土)10時～11時

場所／飯山市子ども館きらら

定員／30人(園児から小学生対象)

参加無料

※同館の利用者が対象です

問合せ：飯山市子ども館きらら ☎0269-67-0167



#### ハンドパペットをつくろう

9月6日(火)13時～16時

場所／松川村すずの音ホール

2F研修室

定員／10人(大人向け) 参加無料

※事前の申込みが必要です

問合せ：松川村図書館 ☎0261-62-0450

10月・11月に伊那市・辰野町でも計画中！

詳細が決まり次第、いいだ人形劇センターのウェブサイト・Facebookでお知らせします

支援：信州アーツカウンシル(一般財団法人長野県文化振興事業団) 令和4年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



現劇団員の20年以上前の姿

いいだ人形劇フェスタの舞台裏にて



載取消が間に合わず、僕の名前と劇団名が載っていない、人形劇をやっていると想っていたらしい。実際は人形劇はやっていなかったが、これも縁だと思えば彼女と大学の友達とアマチュア劇団を作り参加することにした。  
その後段々人形劇に興味がわき、「人形劇団どむならん」の友の会に入会。ある日どむならんが新人を探していたところ、酔った勢いで「僕やります」と言い、現在に至る。  
細い糸がつながり、今人形劇をしています。大学時代の彼女とはその後結婚。いいだ人形劇フェスタがなかったら、今の家庭もなかったかもしれません。不思議な縁を感じます。

「舞台上立つのは十数年ぶり。体に鞭打ってやっています」と笑う吉澤亜由美さん。  
2020年秋に旗揚げした「人形劇DALA」。飯田市出身で、人形劇団ひとみ座に在籍していた吉澤亜由美さん・関島路乃さんによる劇団です。飯田下伊那の保育園や図書館、イベント等から声がかかり、テンポのよい上演にお客さんは「二人で演じているとは思わなかった」と口をそるえます。



いいだ人形劇センター主催の人形劇講座エースクラブで飯田市内の中学生を指導する吉澤さん(写真上)、関島さん

### 人形劇DALA

楽しい仲間がやってくる



人形劇DALAの第一作『ふたりの魔女ノビーとチャッキー』。吉澤亜由美さん(写真左)・関島路乃さん。劇団名の「DALA(だら)」は「～でしょ」の飯田弁

昨年、いいだ人形劇フェスタに初参加。参加劇団・観劇者が限定されてはいましたが、地元の方々に知ってもらう機会になりました。  
上演だけでなく人形劇講座の講師を務めるほか、吉澤さんは人形美術家、関島さんはテレビやCMなどの撮影現場で人形操演師としても活躍。さらに子育て真っ最中と、いくつもの顔を持つ二人。「いろいろなかわり方で、私たちがこれまでに学び、感じてきたことを伝えたい」と熱く語り、劇を支え、裾野を広げる役割も担います。



### 全人協通信 専門人形劇団事情⑬

## 地域劇団のつづやき

人形劇団どむならん 西出和人

一般社団法人 全国専門人形劇団協議会(全人協) 人形劇の普及と芸術性の向上をはかり、人形劇表現への理解と支持を広げることをめざし、1997年に発足。44劇団が加盟しています。

三重の伊勢出身の僕は、進学した愛知の大学で友達に「児童文化研究会の新歓花見に行こう」と誘われ、そのまま自主性もなく入部することに。部は楽しくそこで彼女もできた。だが人形劇とはほぼ無縁だった。

卒業後地元で就職し、人形劇とは縁のない生活を送っていた僕は、ふと学生時代に部で旅行代わりに観劇参加した「いいだ人形劇フェスタ」を思い出し、彼女とこれまた旅行気分でも申し込んだ。申込書の劇団名は適当に書いた。だが結局都合が悪くなりキャンセル。これで私と人形劇をつなぐ物語は終わり、はずだった。

数か月後、なぜか家に「伊勢の人形劇フェスタに出ませんか？」と電話が。どうやらフェスタ公式ガイドブックの参加劇団リストの掲